瀬藤 芳哉

1. 授業の概要(ねらい)

グローバル化の進行する中で企業の海外直接投資、グローバルな生産、販売、マーケティング、研究開発等が一般化している。従来は先進国の大企業がこうした動きの中心にいたが、近年は中小企業も多い。また新興国の企業の国際展開 も目立つ。日本の場合、国内市場の縮小に伴い国際展開が必須である。この中で積極的に活躍の場を広げ収益を拡大し ている企業は多いが、他方で新たな課題・問題に直面し対応を迫られているケースも多い。この授業では、グローバルな展 開を行う多国籍企業等の活動に関し、マクロ的な環境、グローバルな事業の現状、直近の国際ビジネスのトピック等を取り上げ、その背景・歴史を学び、企業の課題を考える。授業においては講師の実務経験(国際金融、メーカー等)を踏まえ、具体的な事例を紹介して分かりやすい講義を目指す。なお、受講者の希望や授業の進捗度合い等を踏まえ、内容や日程に変 更を加えることがあります。

2. 授業の到達目標

多国籍企業のグローバルな事業の現状とその背景・歴史を理解する。国際ビジネスの基礎を身に付ける。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験40%、小テストないしレポート50%、授業への参加度10%、受講態度(私語の有無、等)も重視します。 6回以上欠席した場合は成績評価の対象外になり、単位取得は認められません。

4. 教科書·参考文献

教科書

梶浦雅己編著 『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス(改訂新版)』 文眞堂

参考文献

月泉 博 ユニクロ 世界一をつかむ経営 日経ビジネス文庫

角井亮一 アマゾンと物流大戦争 NHK出版新書 高橋浩夫著 最新国際経営入門 同文館出版

5. 準備学修の内容

- ・教科書の予習。参考文献のビジネス書等を読み、それについてのレポートを提出する。
- ・企業の海外活動や多国籍企業の具体事例に触れるため、日経新聞を読む。

6. その他履修上の注意事項

・新聞、インターネット等で具体事例に触れることが重要です。出来れば、英語のニュースや文献に触れるよう努める。 ・受講態度(私語等を含む)に問題ある場合は厳格に対応します。

7. 授業内容

ガイダンス 国際経営とは 【第1回】 【第2回】 ビジネスのグローバル化

【第3回】 グローバル・ビジネスの環境:政治経済 グローバル・ビジネスの環境:文化的環境 【第4回】 グローバル・ビジネスと倫理(CSR)

【第5回】

多国籍企業の歴史的展開 【第6回】

中間のまとめ 【第7回】

【第8回】 多国籍企業と国家

通商政策:多国間協定、地域貿易協定 【第9回】

直接投資 【第10回】

市場、製造業とサービス業 【第11回】

国際経営戦略 【第12回】 国際経営組織 【第13回】

【第14回】 ケーススタディ(アジアを中心とする新興国と国際ビジネス)

【第15回】 まとめ